



菊陵中だより

第7号 (学力特集号)
平成30年10月10日
北九州市立菊陵中学校
校長 善家 三知代

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

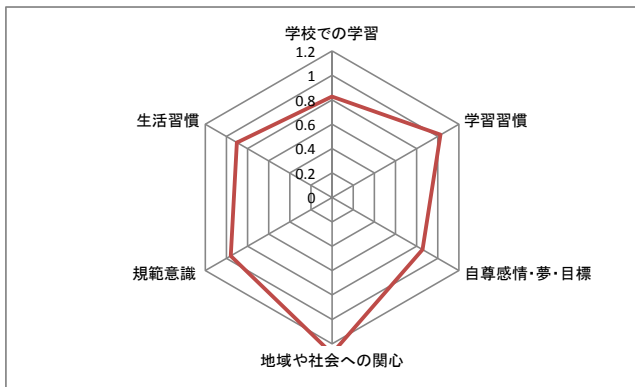
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	無解答率は北九州市の平均と同等であるが、記述式の問題に課題がある。特に、解答の文字数が多い問題に対しての課題は大きい。	下回っている。
国語B	国語Aと同様、「書く力」に課題がある。また、問題文を読み解く力の不足から、誤答率や無解答率が高くなっている。特に、無解答の割合が高く、大きな課題である。	下回っている。
数学A	図形の正式名称や基礎的な計算など、基礎基本の定着に課題がある。	下回っている。
数学B	問題文を解釈するや説明力、問題文の長い設問に取り組む意欲に課題がある。	下回っている。
理科	基礎的・基本的な知識や技能に課題がある。また、選択問題の無解答率が高い一方で、記述問題の無解答率は高く、粘り強く問題に取り組む意欲にも課題がある。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○家庭での学習習慣は、全国平均値と比較すると概ね定着しているが、計画を立てて学習する点や主体的に学習に向かう点に課題がある。

○規範意識という観点から生活を見ると全国平均値とほぼ同等であるが、朝食を食べない生徒の割合が多いため、家庭と連携して食育を進めていく必要がある。

○人の役に立つ大人になりたいと答えた生徒が多い一方で、将来の夢が持てないと答えた生徒も多く、生徒の中での葛藤がうかがえる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎基本の徹底に努めるとともに、まとめや振り返りを自分の言葉で書かせる指導を全教科で行うなど「書く力」の向上に取り組む。

また、1日1ページノートの取組や教科コンクールの取組を継続して行い、全体で評価することで学習意欲の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

食育担当を中心に、家庭、栄養教諭と連携し食育を推進していく。また、ローテーション道徳を実施するなどして道徳教育を充実させることで、将来の目標を持って学習や行動する力を培う。